

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和3年2月】

■調査概要（データ対象期間：令和3年2月1日～2月28日）

○調査期間：令和3年2月26日～令和3年3月18日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業20企業、製造業22企業、卸売業12企業、小売業24企業

飲食業16企業、サービス業44企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計138企業>

○調査項目：2月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲56.3）よりマイナス幅が17.9ポイント縮小し、▲38.4となった。業種別では、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

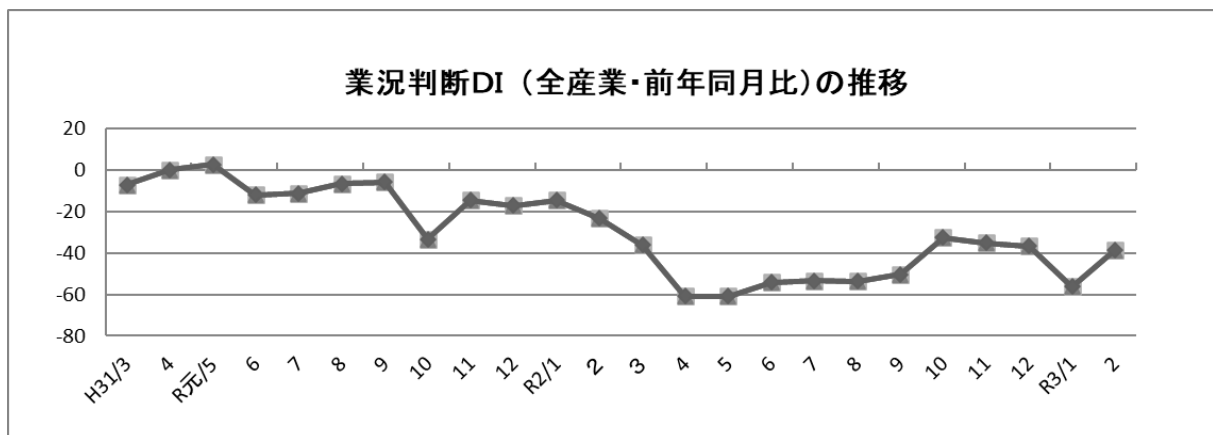
○全産業合計の水準DIは、前月（▲55.6）よりマイナス幅が13.6ポイント縮小し、▲42.0となった。業種別では、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.3 (4.4)	37.0 (34.9)	50.7 (60.7)	▲ 38.4 (▲ 56.3)	8.0 (5.9)	42.0 (32.6)	50.0 (61.5)	▲ 42.0 (▲ 55.6)
建設業	5.0 (0.0)	65.0 (68.4)	30.0 (31.6)	▲ 25.0 (▲ 31.6)	5.0 (0.0)	55.0 (57.9)	40.0 (42.1)	▲ 35.0 (▲ 42.1)
製造業	9.1 (5.3)	40.9 (15.8)	50.0 (78.9)	▲ 40.9 (▲ 73.6)	13.6 (10.5)	40.9 (15.8)	45.5 (73.7)	▲ 31.9 (▲ 63.2)
卸売業	25.0 (0.0)	25.0 (41.7)	50.0 (58.3)	▲ 25.0 (▲ 58.3)	8.3 (0.0)	41.7 (33.3)	50.0 (66.7)	▲ 41.7 (▲ 66.7)
小売業	29.2 (19.2)	29.1 (19.3)	41.7 (61.5)	▲ 12.5 (▲ 42.3)	16.7 (23.1)	41.6 (15.4)	41.7 (61.5)	▲ 25.0 (▲ 38.4)
飲食業	6.3 (0.0)	6.2 (5.6)	87.5 (94.4)	▲ 81.2 (▲ 94.4)	0.0 (0.0)	25.0 (5.6)	75.0 (94.4)	▲ 75.0 (▲ 94.4)
サービス業	6.8 (0.0)	40.9 (48.8)	52.3 (51.2)	▲ 45.5 (▲ 51.2)	4.5 (0.0)	43.2 (51.2)	52.3 (48.8)	▲ 47.8 (▲ 48.8)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

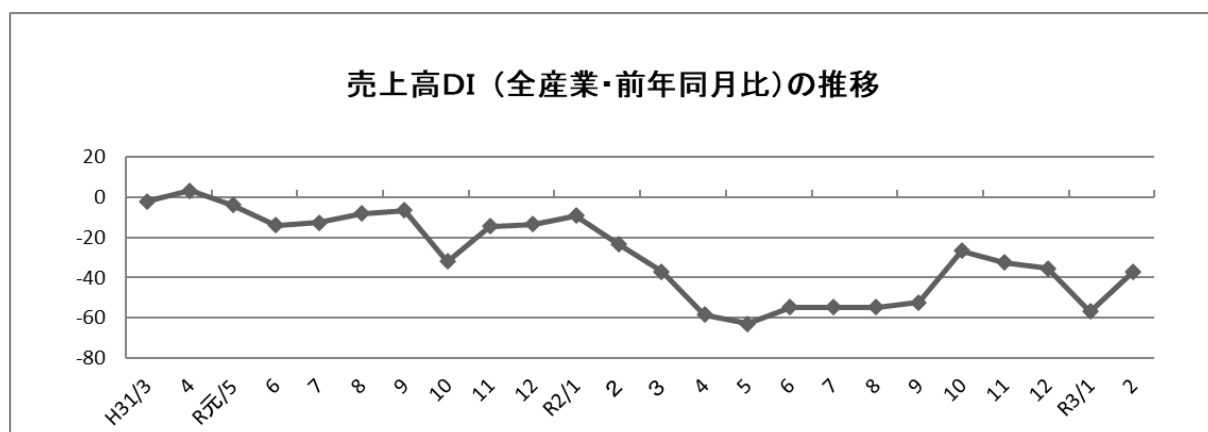


2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲57.0）よりマイナス幅が20.0ポイント縮小して、▲37.0となった。業種別に見ると、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
全体	▲23.4	▲37.0	▲58.6	▲63.0	▲54.8	▲54.8	▲54.9	▲52.4	▲26.8	▲32.4	▲35.4	▲57.0	▲37.0
建設業	▲12.5	▲5.0	▲35.0	▲18.2	▲29.2	▲31.8	▲35.0	▲39.1	▲15.8	▲22.8	▲13.6	▲47.4	▲20.0
製造業	▲41.0	▲19.1	▲75.0	▲70.0	▲70.6	▲76.2	▲68.2	▲64.0	▲47.6	▲38.1	▲43.5	▲68.4	▲36.3
卸売業	▲28.6	▲81.8	▲63.6	▲72.7	▲53.8	▲41.7	▲60.0	▲61.5	▲25.0	▲61.5	▲38.5	▲58.3	▲41.7
小売業	▲25.0	▲46.1	▲50.0	▲72.0	▲32.0	▲66.7	▲43.5	▲36.4	▲13.1	▲17.4	▲7.4	▲38.5	▲8.4
飲食業	▲47.0	▲92.9	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲88.2	▲58.8	▲68.7	▲87.5	▲94.4	▲81.2
サービス業	▲8.9	▲25.5	▲56.8	▲61.4	▲65.9	▲44.2	▲46.7	▲44.1	▲17.4	▲20.5	▲39.6	▲51.3	▲43.2

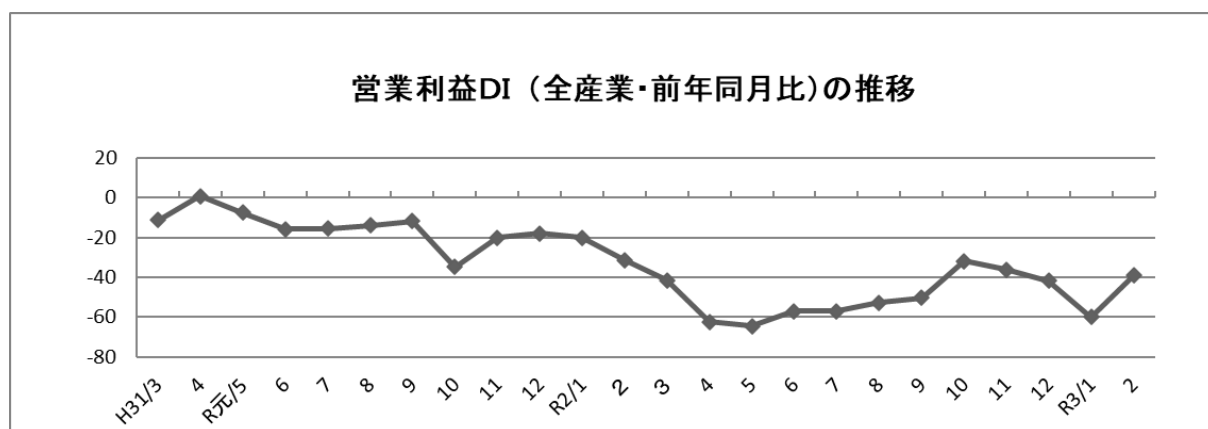


3. 営業利益D I（前年同月比）

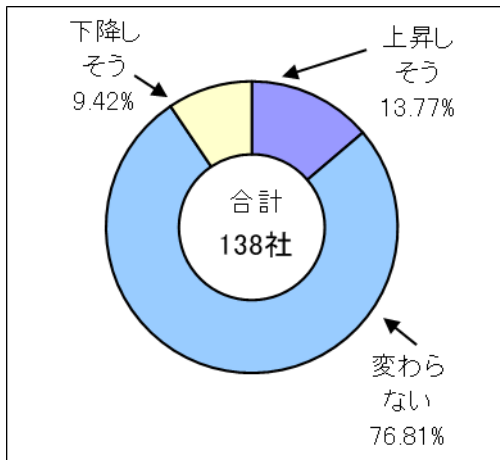
○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲60.0）よりマイナス幅が20.8ポイント縮小して、▲39.2となった。業種別に見ると、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
全体	▲31.3	▲41.5	▲62.5	▲64.5	▲57.0	▲57.1	▲52.8	▲50.3	▲31.9	▲36.0	▲41.7	▲60.0	▲39.2
建設業	▲29.1	▲30.0	▲40.0	▲31.8	▲37.5	▲36.4	▲40.0	▲30.4	▲31.6	▲36.4	▲31.8	▲47.4	▲30.0
製造業	▲50.0	▲38.1	▲81.2	▲65.0	▲82.3	▲90.5	▲59.1	▲60.0	▲52.4	▲57.1	▲56.5	▲73.6	▲31.8
卸売業	▲42.9	▲54.5	▲72.7	▲90.9	▲53.8	▲50.0	▲46.7	▲46.1	▲25.0	▲46.1	▲23.1	▲58.3	▲33.4
小売業	▲35.7	▲46.2	▲54.2	▲68.0	▲32.0	▲62.5	▲43.5	▲36.3	▲8.7	▲17.4	▲18.5	▲46.2	▲25.0
飲食業	▲52.9	▲85.7	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲94.1	▲70.6	▲81.3	▲87.5	▲94.4	▲81.2
サービス業	▲8.9	▲27.9	▲59.1	▲59.1	▲63.5	▲41.9	▲46.7	▲46.5	▲21.8	▲15.9	▲41.8	▲53.7	▲40.9



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

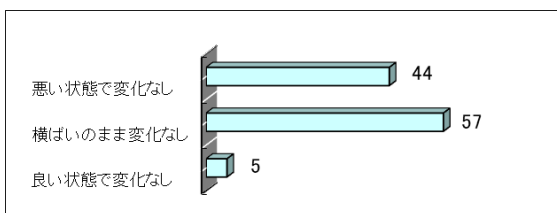


○令和3年3月～令和3年5月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ3.40ポイント増加し13.77%、「下降しそう」が3.91ポイント減少し9.42%となった。業種別の見通しDIは建設業(0)、製造業(18.2)、卸売業(25.0)、小売業(0)、飲食業(▲18.8)、サービス業(4.5)であった。

➡「上昇しそう」では「2月が悪すぎて、上昇してほしいため」「3月の年度末と5月決算、第4四半期に追い込みをかけるため」「国、県 2月補正分の工事発注が多いため」(建設業)「年度末と緊急事態宣言解除のため」「仕事の受注が増えてきたため」「繁忙期と新型コロナウイルス感染症の影響のため」「3月は受注増が見込めるため」「季節的要因のため」(製造業)「新型コロナウイルス感染症の落ち着いたため」「春に向け人の流れが出ると思われるため」「中国、北米向け製品が2018年度を超える勢いのため」(卸売業)「新型コロナウイルス感染症が落ち着き、人の動きが活発になりそうのため」「企画が良く評判が良いため」「ワクチン接種が始まり人の動きが出てくると思われるため」(小売業)「首都圏の緊急事態宣言解除、県民支えあい家族宿泊割引及びGo To トラベルキャンペーン事業再開のため」「緊急事態宣言がオールクリアになれば、動き出す可能性があるため」「職業訓練受講者数が微増に転じたため」(サービス業)といった声が寄せられた。

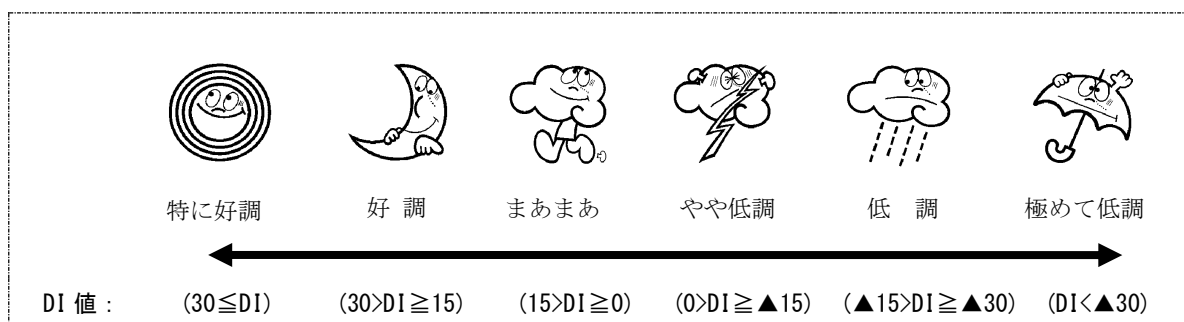
➡「変わらない」では「新型コロナウイルス感染症の感染状況の下げ止まり、第4波も想定されているため」「仕掛りが減ってきたため」(製造業)「景気浮揚の材料が乏しいため」(小売業)「仕掛中の案件の回収が期待できるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「新型コロナウイルス感染症で飲食店の受注減のため」「航空産業の新型コロナウイルス感染症の影響のため」(製造業)「新型コロナウイルス感染症変異ウイルスの影響が長引きそうのため」「観光客をはじめ、人出が少ないため」(小売業)「東京都などからの人の流れがあるため」「3、4月の人の移動で新型コロナウイルス感染症患者数が増加しそうのため」(飲食業)「官庁の発注が年度末で見込めないため」(サービス業)「新型コロナウイルス感染症の影響(同意見3件)といった声が寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



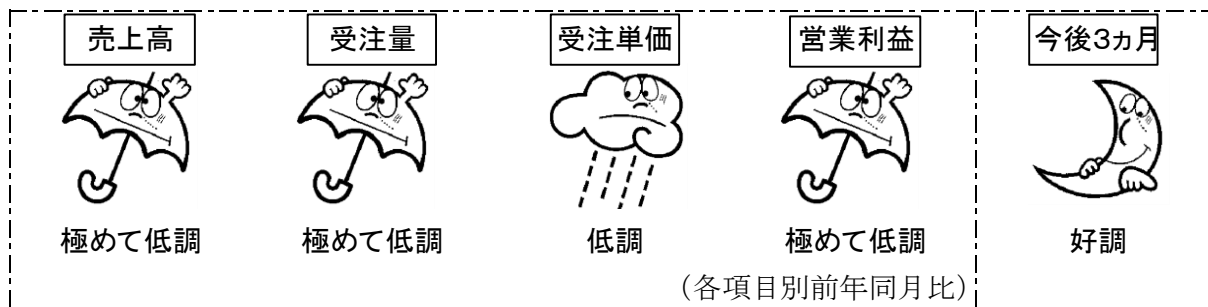
【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲12.5	▲5.0	▲35.0	▲18.2	▲29.2	▲31.8	▲35.0	▲39.1	▲15.8	▲22.8	▲13.6	▲47.4	▲20.0
受注量	▲16.7	▲25.0	▲55.0	▲36.4	▲29.2	▲27.3	▲25.0	▲34.8	▲21.0	▲18.2	▲27.3	▲31.5	▲25.0
受注単価	▲8.3	▲5.0	▲15.0	▲18.2	▲20.8	▲18.2	▲25.0	▲21.7	▲10.5	▲13.7	▲4.5	▲15.8	▲15.0
営業利益	▲29.1	▲30.0	▲40.0	▲31.8	▲37.5	▲36.4	▲40.0	▲30.4	▲31.6	▲36.4	▲31.8	▲47.4	▲30.0
見通し	▲12.5	▲5.0	▲25.0	▲13.7	▲4.2	▲4.6	0.0	▲8.7	▲10.6	▲13.7	▲4.6	10.5	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 総合建設**
 - ・県の2月補正による公共工事は438億円、そのうち松本建設事務所管内配分は40億であった。
- 鉄工**
 - ・12月から2月は人口密集地への緊急事態宣言や長野県の警戒レベルも上がっていたためほとんどの会議は中止となっていたが、ここへきて再開の動きとなっている。また、関東方面等からも来社、あるいは打ち合わせ等にて外出する機会も増えてきている。一般市民へのワクチン接種は見通しが立っていないと思われ、各自で予防に一層注意が必要かと思われる。
- 土木工事**
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響で、次年度の公共予算がかなり減らされるだろうと予測する。
 - ・建設業(特に土木関係)は19年度災害復旧工事の増量発注で受注量が多く技術者不足に直面し、建築関係は民需や公共事業が少なく苦戦しているようだ。
- 電気工事**
 - ・2月はまだ官庁の現場が竣工に向け忙しく動いているが、終了する3月以降の工事受注に懸念がある。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲ 41.0	▲ 19.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 70.6	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6	▲ 38.1	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3
受注量	▲ 41.0	▲ 33.3	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 81.0	▲ 59.1	▲ 52.0	▲ 42.8	▲ 33.4	▲ 56.6	▲ 57.9	▲ 31.8
受注単価	▲ 9.1	▲ 4.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.3	▲ 42.9	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 19.0	▲ 17.4	▲ 21.1	▲ 18.2
営業利益	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 81.2	▲ 65.0	▲ 82.3	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4	▲ 57.1	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8
見通し	▲ 22.8	▲ 38.1	▲ 31.3	▲ 30.0	▲ 35.3	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 14.2	▲ 17.4	15.8	18.2

<経営者の目・見方・etc>

印刷

・1月からの大都市圏での緊急事態宣言とともに、地元松本圏域でも感染が拡大したため、その収束とともに年度末との重複もあって反動増の様子が見られた。ただ、全体としてはまだまだ本格的な経済の復旧とは程遠い。特に印刷業は年度末、客単価が低くても納期を学校や官公庁に間に合わせなければならないため、後加工の製本などは働き方改革どころの騒ぎではない業務状態に陥る。印刷・製本業界の業務の平準化は、学校年度や行政の会計年度とも重複している限り極めて難しい。今年度をもって事業を閉じる印刷会社が数社出てきている模様。業界の事業運営の難しさとともに、コロナ禍の事業承継の難しさなども、印刷業界に限らず難しい様相を表している。

精密機器

・令和2年の年末から若干の改善の雰囲気があったが、一進一退で力強さに欠ける。令和3年中の本格的な回復は難しい状況である。

精密機器組立

・3月以降の受注が増えてきた。2月までは週休3日でやってきたが、3月からは通常稼働に戻せる。

小型情報機器組立

・半導体の部品入が悪い。

紙器

・受注にも波があり、なかなか先の見通しが見つからない。

金属塗装

・新型コロナウイルス感染症の影響で受注が大幅に落ち込んでいる。1月より多少上向いたがまだ不十分である。

清酒製造業

・2月中旬から少しずつ動くようになってきた感じがするが、首都圏の動向は相変わらず悪い状況が続いている。

漬物・味噌

・観光客がゼロだった。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲ 28.6	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 53.8	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0	▲ 61.5	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7
販売客数	▲ 28.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 30.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 33.3
販売客単価	▲ 7.1	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 27.3	▲ 15.4	▲ 33.4	13.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 41.7
営業利益	▲ 42.9	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4
見通し	▲ 35.7	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 7.7	▲ 8.3	0.0	7.7	▲ 8.3	▲ 15.4	▲ 23.1	8.4	25.0

<経営者の目・見方・etc>

土産品

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により売り上げの低迷が続きはや一年が経過した。何も対策を講じることができず、厳しい年度だった。地元の商業施設の協力をいただき、土産品の特設コーナーを作っていただき最古品の販売ができた。

魚介類

・新型コロナウイルス感染症の影響で得意先からの受注が減少した。

青果

・1月に続き量販店の動きはまずまずで、業務関係は依然厳しい状況である。野菜、果実共に昨年並みの単価水準であった。3月からは春物商材が増となり、単価が上がることに期待したい。

青果卸小売業

・土日にスーパー・大型店での買い物が増え、平日は動きがなかった。寒かったり暖かかったりの変動で嗜好が不安定、難しい販売だった。

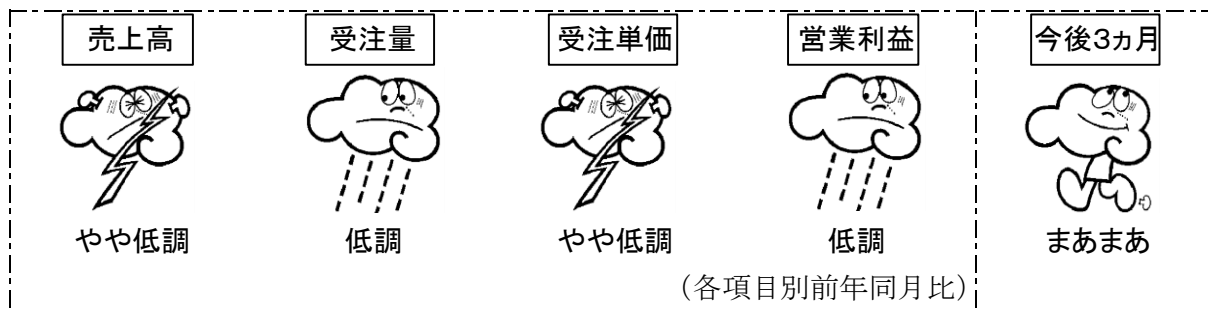
金属製品

・各メーカーが強気姿勢で値上げ強行している中、客先へ正確な説明をして、価格転嫁している状況である。まだまだ板関連のタイト感があり、今後鉄鋼二次製品への影響が懸念されている。

機械工具

・良くなってきている兆しはあるが、新型コロナウイルス感染症の収束スピードによると思う。
・原材料不足、納期の長期化、それに伴うニッケル、真鍮、銅、66ナイロンの価格の上昇が見られる。また、輸出入の税関遅れ、コンテナ不足から中国製品が長納期化し始め、今のところ5ヵ月ほどの遅れである。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 72.0	▲ 32.0	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1	▲ 17.4	▲ 7.4	▲ 38.5	▲ 8.4
販売客数	▲ 35.7	▲ 61.5	▲ 62.5	▲ 68.0	▲ 44.0	▲ 54.1	▲ 30.4	▲ 36.4	▲ 26.1	▲ 26.1	▲ 29.7	▲ 53.9	▲ 20.8
販売客単価	3.6	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 28.0	▲ 12.0	▲ 37.5	▲ 21.7	▲ 31.9	▲ 4.3	▲ 21.7	▲ 3.7	▲ 7.7	▲ 8.3
営業利益	▲ 35.7	▲ 46.2	▲ 54.2	▲ 68.0	▲ 32.0	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7	▲ 17.4	▲ 18.5	▲ 46.2	▲ 25.0
見通し	▲ 53.6	▲ 61.6	▲ 45.8	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 17.4	0.0	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 18.5	▲ 3.8	0.0

<経営者の目・見方・etc>

印章

・松本市のPayPayキャンペーンのおかげで、PayPay払いは増えたが、クレジットカードの売上がPayPayに移行しただけで、実質の売り上げ増とは言えなかった。寒さと自粛要請で休日も人出はまばらである。3月の年度末需要に期待したい。

洋菓子店

・去年のバレンタインデー週間と比べると、今年は多く感じた。新型コロナウイルス感染症が終息を迎えてきた感が大きくなっているのか、アフターコロナの話も多く聞こえてくる。今後に期待したい。

和菓子

・松本市内に人が大勢おらず、特定の場所(松本城、イオン、中町等)に人が集中しているように思われる。

おやき

・宿泊施設関係の注文が激減しているので、今後も新型コロナウイルス感染症が終息するまで工夫して乗り切りたい。

生鮮食品

・毎年2月は雪が降ったり寒かったりと静かな月なのだが、外に出られない分家族での食事が増えている。去年の2月から一年間、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。

化粧品

・中心市街地への人の出、通行量が少なく、空き店舗が増えてきており、心配である。

住宅機器

・出口が見えないが、来期に向けて前向きに頑張りたい。

ガラスサッシ

・新規テナントの問い合わせが2、3件出てきた。

陶磁器

・松本市は雪も降らず、気温も高めであるが、観光客も地元客も少ないままで相変わらず街中は閑散としていたが、葬式で行った名古屋市内は緊急事態宣言中にも関わらず新型コロナウイルス感染症前の賑わいが戻っていた。ただ、お酒のラストオーダーは19時で、20時には完全閉店が多く、夕食難民となったが、自宅の一角で家族だけで営業している飲食店にとっては、360万円の協力金は平年の売上と比べても遜色なく、自動車の購入話で盛り上がっていた。

薬局

・空き店舗が出てきて、危機感を感じる。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲ 47.0	▲ 92.9	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 88.2	▲ 58.8	▲ 68.7	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2
販売客数	▲ 47.0	▲ 92.9	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 68.7	▲ 93.8	▲ 94.4	▲ 81.2
販売客単価	▲ 23.5	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 81.3	▲ 66.7	▲ 61.5	▲ 64.7	▲ 47.0	▲ 52.9	▲ 56.3	▲ 75.0	▲ 66.7	▲ 81.2
営業利益	▲ 52.9	▲ 85.7	▲ 92.3	▲ 100.0	▲ 86.7	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 81.3	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2
見通し	▲ 47.1	▲ 71.4	▲ 46.2	▲ 18.7	▲ 26.6	▲ 23.1	▲ 41.2	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 18.8

<経営者の目・見方・etc>

料理

・豆を撒き、邪を追い払う節分でも人を動かせず、コロナ禍のため息が出る2月であった。

郷土料理

・前半は売上も前年の2～3割になる日ばかりだったが、後半は暖かい週末は人出があり、売上も良い日があった。春を前に人の気持ちが緩んでいるようにも感じた。今後の市内の人の動きが気になる。

食堂

・新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが下がると、なんとなく人が出歩くようになり、昼間の客数も増えたようである。夜の営業は相変わらずダメで、その分テイクアウトやデリバリーが増えた。

・松本地区で感染者が出ると客足が減少する。後半は感染者が減り客足も安定してきた。イオンモール周辺の人出も多くなってきたように感じる。

・J2松本山雅 FC の試合が始まり、市内、県内が活気づけばよいと思われる。

寿司

・そもそも月日数が少ないこともあり、月単位で見ると厳しい2月であるが、緊急事態宣言も重なり、単月で見ても厳しい月となった。3月に入ってから、一部緊急事態宣言の解除に加えて、暖かい陽気もあってか、お客様の出足も大きく伸びており、引き続き団体客が期待できない中ではあるが、今後の好転が期待できる現況である。

・新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが下がったこと、2月としては暖かい日が多かったためか、外出している人がかなり増えてきたように思う。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと整えてお客様を迎えたいと思う。ワクチン接種開始が非常に待ち遠しい。

居酒屋

・新型コロナウイルス感染症により経営が厳しい状態である中で、首都圏からの往来があり、新型コロナウイルス感染症の影響が増えると予想している。

そば

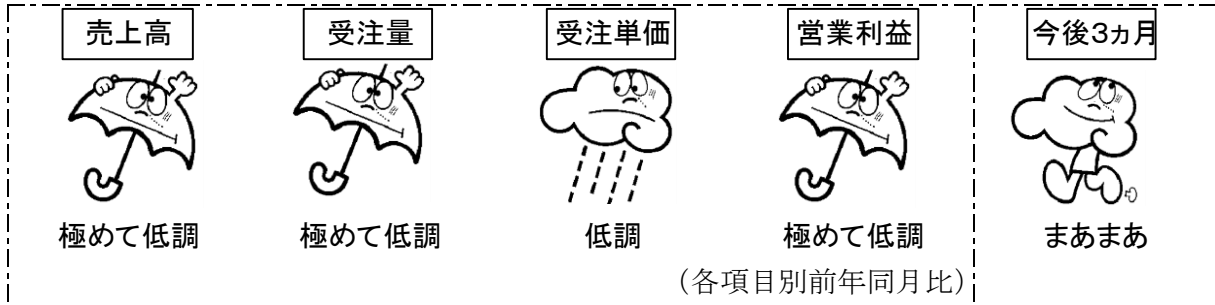
・一般人のワクチン接種が7月頃開始のようだが、第4波等の不安や去年のように5月、6月に緊急事態宣言などのないようになんただ願う。

中華料理

・前年度より売り上げが減少している。従事者の負担が増している。

・相変わらず宴会がないため売り上げは落ちている。テイクアウトが昨年4、5月ほどではないが2月に入り増えている。祝日が2日あり、お昼は観光客や家族連れが多く来店した。県外からのお客様が増えているような気がする。来店は嬉しいが、また新型コロナウイルス感染症が広がらなければいいなど少し心配である。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R2年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月
売上高	▲ 8.9	▲ 25.5	▲ 56.8	▲ 61.4	▲ 65.9	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4	▲ 20.5	▲ 39.6	▲ 51.3	▲ 43.2
販売客数	▲ 8.9	▲ 32.5	▲ 59.1	▲ 54.5	▲ 63.4	▲ 46.5	▲ 44.5	▲ 41.9	▲ 19.6	▲ 18.1	▲ 34.9	▲ 56.1	▲ 43.2
販売客単価	▲ 2.2	▲ 16.2	▲ 31.8	▲ 36.4	▲ 39.1	▲ 25.6	▲ 20.0	▲ 20.9	▲ 8.7	▲ 6.8	▲ 14.0	▲ 24.4	▲ 27.2
営業利益	▲ 8.9	▲ 27.9	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 63.5	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 41.8	▲ 53.7	▲ 40.9
見通し	▲ 40.0	▲ 44.2	▲ 34.1	▲ 20.5	▲ 9.7	▲ 11.6	▲ 13.4	▲ 4.6	▲ 6.5	▲ 16.0	▲ 23.3	▲ 12.2	4.5

<経営者の目・見方・etc>

自動車整備・
板金塗装

機械設計
ソフトウェア

システムサポート

タクシー

温泉旅館

ホテル

- ・新型コロナウイルス感染症、雪不足、いろいろなことが経済を押し下げている感がある。これからの仕事量の確保が大変になってくるような気がする。元の活気が出てくるにはまだ時間がかかりそうな気がして不安である。
- ・年度末で一段落したが、来期のテーマがまだ決まっていない。
- ・弊社の顧客はたまたま3月決算のところがないが、同業他社ではそうしたプロジェクトがピークを迎えていると聞く。大手が元請となる構造は変わらないが、小規模なIT企業でもビジネス上の問題解決に向けた提案力を持つべきだと感じることが多い。
- ・新型コロナウイルス新規感染者の減少により、全般的な経済は動き出していると思うられるが、まだまだ投資意欲は弱い。
- ・コロナ禍で人の動きや売り上げの減少が続いている中でオート燃料の価格はこのところずっと値上がりが続いている。
- ・結果的には前年の2月より売上高が良かった。要因としては長野県でやっている県民割のおかげである。県外からのお客様もますますで、やはり全体的に自粛慣れ(疲れ)と感染者数の減少で、旅行や出張のお客様も徐々に増えてきている傾向を感じる。来月どうなるか分からないが、コツコツ頑張るしかない。
- ・宿泊は最悪な状況である。レストランは多少客が戻りつつあるが、宴会、会議の利用は最低である。

旅館
介護サービス

- ・新年会などの宴会がなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症により営業できず、ほとんど休業に等しい。
- ・新型コロナ感染症関連の諸問題が悩みの種になっている。4月の介護保険法改正が重要課題である。

理容

- ・人の動きが止まったままである。緊急事態宣言解除、ワクチン接種などにより、どう動きが出るか、景気の落ち込みにより期待は薄い。長期的視野に立って、今後の動向に期待したい。

リラクゼーション

- ・新型コロナウイルス感染症第3波と、緊急事態宣言の影響が感じられる。

測量・建設コンサルタント業

- ・1月に続き、2月の売上も低調だった。しばらくはこの状態が続きそうである。

ペットサービス

- ・来店数、売上高共に前年を上回った。ペット業界全体が売上増加傾向にある。

写真

- ・学校関係、保育園等年度終了となるので、2月はその前に行事、記念写真等毎年の通常業務が滞りなくできてよかった。婚礼に関しては新型コロナウイルス感染症の影響で延期していた方々も人数を減らし、家族や親族でご結婚式を挙げる方々も増えてきて、少しずつ動き始めた感じである。入学式シーズンにも期待している。